

コウノトリ (*Ciconia boyciana*), 自然内野外観察とひなの室内観察結果

- 1 自治体名 ハバロフスク地方
- 2 発表者名 Sidenkov Maxim (シデンコフ マキシーム)
第5アムールスク市立総合学校8年生
「ナチュラリスト」児童環境・生物学センターのメンバー
- 3 活動名 コウノトリ (*Ciconia boyciana*)。自然内野外観察とひなの室内観察結果
- 4 活動期間 2004年5～7月
- 5 活動場所 国立自然保護区域「バローニスキー」内
- 6 活動参加人数 10名
- 7 活動をはじめた経緯

コウノトリ日露共同保護繁殖研究調査における国立自然保護区域「バローニスキー」内、キルプ湖周辺にあるコウノトリ2組の巣の野外観察と2羽のひなの成長室内観察

8 発表要旨 (図表を含む)

2004年にはコウノトリ日露共同保護繁殖研究の第3回調査が実施され、日本の(兵庫県)豊岡市「鶴の家」センターに、ハバロフスク地方の「ナチュラリスト」児童環境・生物学センター内で育成を受けた2羽のひなが寄贈された。

自然保護区域内での野外観察について、一ヶ所の巣では、コウノトリがお互いに交代し、まったく巣を離れることはなかった。原因はかなり低い気温にあると思われた。食事もお互いに交代しながら行っていた。食事をするところは確認できなかった。

第16巣にも似たような状況が確認されたが、巣が観察地点から離れていたため、明確なモニタリングは困難であった。

2004年6月、ジュエン村周辺の土地にあった巣の中にいた4羽のひなの中から、より体の弱い2羽のひなが回収された。その2羽のひなが2ヶ月間「ナチュラリスト」児童環境・生物学センターで室内育成を受けた。育成の成功が測定や科学的なテストによって確認された。育成期間中、ひなは活発で成長も順調に進んでいた。室内育成期間中にやや腸内微生物相の変化が見られたが、体調には影響がなかった。

観察結果

2004年春に実施された巣の野外観察によって国立自然保護区域「バローニスキー」内コウノトリの個体群の状況は普通であると判断された。

アムール川地域におけるコウノトリ数減少の原因としては、森林火災によって巣作りをできる場所が減ったことが考えられた。火災が起きることには人間も関係する。

今回使用されたひなの室内育成方法は、日本やアムール川地域における数が減少しているコウノトリのひなを守り、室内でひなを育て、個体群の数を増やすために合理的な方法であると確認された。

日本側に渡されたひなは、日本への移動に立派に耐えて、新しい環境にも問題なく慣れ、再び室内増殖に向けて飼育される予定である。